

## &lt;基本情報&gt;

所在地：伊仙町  
年 齢：23歳（R3.4就農）

## &lt;経営概要&gt;

品目：ばれいしょ、肉用牛（繁殖）  
経営規模：ばれいしょ 50a、  
繁殖雌牛 6頭、子牛 2頭



植付けたばれいしょ

## &lt;就農のきっかけ&gt;

県立農業大学校肉用牛科で1年間学び、自営の夢を抱きつつ、島内の肉用牛農家で就労していたが、祖父が経営していた農場を譲り受けることとなり、令和3年4月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## &lt;就農時&gt;

- ・就農前は島内の肉用牛農家で働いていた。
- ・祖父の経営を引き継ぐ形で自営就農し、近隣のベテラン農家のアドバイスを受けながら営農を行っている。
- ・肉用牛農家で働いていた時の貯蓄や新規就農者助成金を基に就農時に不足していた農機具等を購入した。

## &lt;現在&gt;

- ・就農後は、血統の良い子牛を自家保留しながら繁殖雌牛を徐々に増頭している。
- ・就農直後に比べると、ばれいしょの単収も増加している。



ばれいしょ植付け作業

## ② これまで苦労した点

- ・生産資材の高騰から利益が思うように伸びないこと。少しでも利益を増やすため、資材（飼料）の購入先や収穫物の販売先の価格等を比較検討している。

## ③ 就農して良かった点

- ・農業経営は、営農計画から収穫・販売までが自己完結なので達成感がある。
- ・自分が努力した分が収入として返ってくる。
- ・農業経営を通じて人と人のつながりが広がった。

## ④ 今後の目標

- ・今の作目を維持しつつ経営規模を拡大し、地域に貢献できる経営者となることを目指している。今後は所得の向上を目指し、ばれいしょの作付面積を増やすとともに肉用牛繁殖雌牛の増頭に取り組みたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・就農するに当たっては、当面の経営費はもとより、収入が得られるまでの生活費も必要となる。自己資金を十分に確保しておくこと。
- ・生産技術のアドバイスをくれる方を見つけておくことも大切である。

## ＜基本情報＞

所在地：和泊町

年齢：28歳（R元.9就農）

## ＜経営概要＞

品目：花き、ばれいしょ

面積：ソリダゴ 10a、

ばれいしょ 1.2ha



ソリダゴ

## ＜就農のきっかけ＞

実家が菊の栽培農家だったことから、高校生の時から将来は農業に従事したいと思っていた。鹿児島県本土の農業高校を卒業後、社会勉強のため5年間、串木野市漁業協同組合に勤務し、その後、和泊町に帰り1年間親元で農業を学び、令和元年9月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## ＜就農時＞

- ・ソリダゴとばれいしょを栽培品目に選定し経営を開始した。
- ・ソリダゴは花き専門農協へ、ばれいしょは個人業者へ出荷している。
- ・新規就農者助成金を活用し、トラクターと軽トラックを導入した。

## ＜現在＞

- ・経営規模に変化はないが、ばれいしょは本年からJAへ出荷する予定で、今のところ生育は順調である。



ばれいしょのほ場

## ② これまで苦労した点

- ・昨年は台風の被害を受け収量が半減した。干ばつや台風など、離島特有の自然災害による被害があり作物の管理は大変である。
- ・労働力の確保に苦労している。

## ③ 就農して良かった点

- ・会社勤めと違い勤務時間に縛られず、自分で自由に仕事の配分・調整ができること。
- ・自営業なので頑張った分だけ収入となることにやりがいを感じている。

## ④ 今後の目標

- ・将来的には、ソリダゴ40a、ばれいしょ2ha程度に規模拡大したい。
- ・花き施設を台風強い鉄骨平張りのハウスに更新したい。また、出荷時の作業時間短縮のため花き選別機を導入したい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・県の普及センター等から発信される情報（栽培情報・支援事業等の案内など）は営農に有益なものが多いので、それらによる情報収集は大事である。
- ・他の農家を訪問し、栽培方法等を参考にすること。

## &lt;基本情報&gt;

所在地：知名町  
 年齢：29歳（R3.3就農）

## &lt;経営概要&gt;

品目：花き  
 面積：テッポウユリ  
 切花 4a、球根 15a、  
 スナップエンドウ 10a



スナップエンドウのほ場

## &lt;就農のきっかけ&gt;

実家が農家だったので、将来は後継者になるという認識だった。  
 高校を卒業後は27歳まで陸上自衛隊に勤務していたが、両親の農業経営を継承するために退職し、令和3年3月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## &lt;就農時&gt;

- ・テッポウユリは、父親が栽培していたものを引き継いだ。
- ・新規就農者助成金を利用するに当たり、親の経営とは別に知名町の重点作物であるスナップエンドウの栽培を開始した。
- ・29aの農地は親から譲り受けた。
- ・農業機械は、親が所有しているものを共同利用している。

## &lt;現在&gt;

- ・農業創出緊急支援事業を活用し、花き用にビニールハウス（8a）を整備する予定（8月着工）。



テッポウユリ

## ② これまで苦労した点

- ・自然災害（台風）により収益が減ったこと。
- ・繁忙期の労働力確保。現在は、両親が元気でお互いに協力し合って作業を行っているが、両親が高齢になった時に繁忙期の労働力不足を懸念している。

## ③ 就農して良かった点

- ・努力して頑張った分、形となって帰ってくるのでやりがいがある。
- ・自営業なので作業内容等の予定が自由に立てられること。



子供と作業中

## ④ 今後の目標

- ・将来は父が経営するサトウキビとばれいしょ 5haを継承していく。
- ・町内では離農も増えてきているため、手放される農地を入手し経営面積を拡大していくつもりである。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・私自身は、親の経営を引き継ぐ形で就農したことで身近に相談相手が存在したが、農業が未経験の就農者は、周囲の方のアドバイスをよく聞くなど頼ることも必要だと思う。また、行政機関からの情報も活用することが大事である。
- ・農業関係の専門学校で学んでから就農することも一つの方法と考える。



## ＜基本情報＞

所在地：与論町  
年 齢：33歳（H25.11就農）

## ＜経営概要＞

品目：肉用牛（繁殖）  
経営規模：繁殖雌牛 38頭



繁殖雌牛

## ＜就農のきっかけ＞

両親が肉用牛繁殖経営をしていたこともあり、高校在学中から就農を決意していた。両親からは県立農業大学校への進学を勧められたが、牛の飼養管理の勉強は就農してからでもできると思い、自らの判断で九州東海大学に進学し、経営学のほかパソコンのプログラミング、植物学、飼料の給与設計などを学び、平成25年11月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## ＜就農時＞

- ・大学卒業後2年間は、両親を手伝いながら牛の飼養管理を勉強し、平成25年、25歳で独立自営就農。離農した農家の牛舎を借り受け繁殖牛5頭で経営を開始した。
- ・1年目は子牛の出荷がないため、新規就農者助成金を受給し生活費に充当。与論町では初めての受給者となった。
- ・公庫やJAから融資を受け畜舎整備と増頭を図った。

## ＜現在＞

- ・繁殖牛を38頭まで増頭しており、融資も数年で返済可能な経営状況に発展した。
- ・さとうきび農家5戸、肉用牛繁殖農家5戸で耕畜連携に取り組んでおり、さとうきび栽培では牛糞堆肥の散布による有機物の還元により生育が良好となり、畜産農家は堆肥処理の課題が解消した。また、さとうきび収穫後に牧草を植えることで、さとうきび農家は雑草対策、畜産農家は牧草確保など、双方にメリットがある。



子牛

## ② これまで苦労した点

- ・資金面で苦労したこと。就農するに当たっては、畜産の飼養技術等も必要だが、農業経営（資金運用等）をしっかり学んでおけば良かったと後悔した。

## ③ 就農して良かった点

- ・経営者なので自分の考えで経営を進められること。また、規模拡大や休暇の取り方など自分のタイミングで選択できる。
- ・頑張った分の成果が収入に反映されるのでやりがいを感じる。

## ④ 今後の目標

- ・まずは法人化し従業員を雇用した上で、休日にはしっかり休める態勢を（従業員も含めた畜産分野での働き方改革）構築したい。
- ・当面は50頭規模までの増頭を目指し、徐々にスマート機器も導入していきたい。
- ・与論島は農地が限られており、増頭するためには飼料作物用の農地確保が必要なので、耕畜連携に取り組みつつ、高齢化で離農する農家の農地を引き受け飼料作物の増産を図りたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・農業技術も大事だが、資金運用を始めとした経営を勉強してから就農してほしい。
- ・国からの新規就農者助成金は生活費にしかならないので、必要な初期投資は融資を活用するなど、躊躇せずに実行してほしい。